1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600197		
法人名	社会福祉法人勝縁福祉会		
事業所名	グループホームひごころもそう		
所在地	山口県防府市大字浜方8番地1		
自己評価作成日	平成27年1月31日	評価結果市町受理日	平成27年7月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念にあるように「人の幸せを祈る」その人らしさを大切におもてなしの心でお一人おひとり幸せに関わらせていただく。施設職員も皆様の家族が「幸せ」となる施設をめざす。「縁」出会いを大切にその心が最高のサービスにつながる。「笑顔」アットホームで笑顔の絶えない施設づくりを目指す。「志」スタッフ一人ひとりがプロ意識を持ち協同し業務を遂行します。「共に」地域の方、利用者様とその家族に情報を公開し、情報を共有します。また、福利厚生の一環として昼食時の1時間の休憩・有給休暇の取得にも配慮しています。開設2年の施設ではありますが、理想の施設づくりをめざして、地域住民に可愛がっていただけるよう職員も切磋琢磨をしながら、地域密着型の施設のお手本となれるように目指して行きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の8委員会の研修(事例検討や緊急時の対応等)にそれぞれ職員が参加され、月8回、参加した職員が講師を務められ、食中毒、接遇と記録の書き方、事故発生時の対応、身体拘束など、各委員会の復命研修をしておられる他、月1回の会議の中で、内部研修(転倒、誤嚥、食中毒、通報訓練等)を実施しておられるなど、スキルアップに努めておられます。前回の評価を活かして目標達成計画を作成され、運営推進会議の進め方やメンバーの拡大、定期的な内部研修の実施など、改善に向けて取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人の「幸せ」を祈るその人らしさを大切におもてなしの心で、お一人おひとり幸せに関わらせていただく。施設職員も利用者の家族が「幸せ」となる施設を目指している。	法人理念に基づいて事業所独自の介護目標を作成して、事業所内に掲示している。月1回の会議で利用者の希望に添ったその人らしい過ごし方の支援について話し合いをして、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型施設であり、自治会に加入しており自治会より案内があり草刈りがあり5人が出席をしました。運営推進会議には地域より自治会長・民生・児童委員・第3者委員の3人が出席をいただいている。	自治会に加入し、利用者と職員は清掃活動に参加している。中学校の行事に参加している他、保育園児と交流している。地域の民生委員の定例会に管理者が出席し、認知症の理解や介護事業所について話をしている。	・地域との関わり方の工夫
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は4階建てであり、敷地の広さもありませんが、防府市は海拔があまり高くなく、嵐が来ればひとたまりもないので、地域の避難のときにはご遠慮なくと自治会には申し上げている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	施設長・管理者・職員は自己評価及び外部評価は全職員で行い、外部評価は回覧とし全職員で把握している。	管理者は評価の意義について説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布し、月1回の会議で話し合い、朝の申し送り時でも話し合いをして、管理者がまとめている。職員はケアの振り返りと捉え、サービス向上について話し合っている。前回の評価結果を受けて、目標達成計画を立て、運営推進会議のメンバーの拡大や進め方の工夫、内部研修の充実など、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は議事録にまとめ全職員で把握している。来所された方は、いつでも開設からの運営推進会議の議事録を見ていただけるよう玄関横に掲示している	新たにメンバーを加え、年6回開催している。活動報告、利用者状況、事故報告、嘔吐時の対応などの勉強会、外部評価の結果の報告等をして話し合いをしている。メンバーから利用者が散歩する道の安全についての意見があり、地域の人が草刈りをして散歩しやすくなるなど、そこでの意見を活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	防府市への連絡、相談はその都度細やかに行っている。運営推進会議を通じて、地域包括支援センターとの交流が保持され温かいご意見も戴いている。	市担当課とは運営推進会議時の他、議事録の提出などで度々出向いて相談や情報交換をして協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターとは運営推進会議や電話等で相談や情報交換をして連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の実施とマニュアルにより、全職員に徹底。防犯以外の施錠は行っていない。帰宅願望の方は自由に出て行かれるが、横には職員が付き添っている。	マニュアルがあり、内部研修で学び、職員は理解をして抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠をせず、外出をしたい利用者とは職員と一緒に出かけている。スピーチロックについては管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2014年度における要介護施設従業者による高齢者虐待判断係数に関する件数は相談件数197件であったが、前年度に比べ46件の増加となっている。当施設では入浴時、おむつ交換時チェックしており今後とも虐待防止に努めていく。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会を持ち権利擁護に関する理解を進めることで知識の活用が出来ればと思うが利用者様には該当者がいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に限らず、家族との連絡を密にし不安や疑問に答えている。十分な説明と納得後、同意欄に署名捺印をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付・グループホーム内・1階エレベーター昇降前等に生活相談、苦情用窓口について丁寧に資料を添付して【医務】にていつでも対応しますとの広報を行っている。	相談、苦情の受付体制、処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。運営推進会議時や面会時、電話等で家族から意見や要望を聞いている。運営に反映させるまでの意見は出ていない。意見箱を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内には栄養委員会・安全対策委員会・教育委員会。行事委員会・感染症委員会等設置し、毎月委員会の開催を行っている。建設的な意見・提案は積極的に採用して反映させている。	月1回の会議時や朝の申し送り時に職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で管理者が聞いている。法人の8委員会(栄養、事故安全対策、教育、行事、苦情相談など)に担当職員が参加し、意見や提案をだす機会がある。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本的に年1回の面談を行い意見を反映している。(面談は必要に応じてその都度実施)		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員に労働時間・給与水準ややりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件設備に努めている。また、昼食時には60分の休憩を取得するよう努めている。	外部研修の情報を職員に伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告し、資料を閲覧している。法人の8委員会の研修(事例検討や緊急時の対応など)に、職員が参加し、参加した職員は内部研修の講師となり、食中毒、接遇と記録の書き方、事故発生の対応、身体拘束など各委員会の復命研修を月8回実施している他、月1回の会議の中で、転倒、誤嚥、食中毒、通報訓練などの応急手当や初期対応の訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員とも山口県宅老所・グループホーム連絡会を通じて相互研修及び訪問交流を行って活動を通じて、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと一番初めに要望等に耳を傾けて望んでいることを確認後、サービス計画を、本人との安心を確保するための関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人・家族の要望に耳を傾けながら関係づくりに努めており利用者様ご家族との交流は、ご意見を初め外出の時の声かけに反応され一緒に参加されています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議において、意見交換の実施を行い、他のサービス利用も含めた対応に努めている。また、介護サービスには24時間シートを導入している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	天気の良い日は必ず散歩にお誘いして、外気温を感じて頂き、空気をいっぱい吸って頂くようにして、平素は体操や個々についてのお話・童謡を歌いながら関係づくりに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議には、利用者様ご家族交替にて参加していただき、年間を通じた家族参加型の行事の実施などは家族に連絡をして対応や意向を常に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係の方々が来所された時の利用者様の嬉しそうなお顔。出来る限りの面会をご家族様を通じて努めている。	家族の面会がある他、自宅周辺のドライブ、家族の協力を得ての買い物、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を配慮した席の配置。外出時のメンバーの考慮などを行っている。以前は男性・女性の混合席であったが、女性の声も小さくなるため、男性・女性の別々になっている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も、お付き合いをさせて頂いており、また、新たに入所のご相談をさせて頂いて、入所等の配慮をいただいたりと、以前と変わらないお姿に感謝を申し上げたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人ひとりの思いや暮らし方の希望を共用空間でお話を伺いながら、意向の把握に努めている。利用者様の家庭生活と同じ思いで生活していただくよう理解と把握に努めている。	入居時に本人や家族から生活歴、趣味等を聞き、指示書やフェスシートに記録し、職員間で共有している他、日常の関わりの中での利用者の言動や表情等を連絡帳やアセスメントシートに記録して職員間で話し合い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得て、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人ひとりの生活歴ライフスタイルは違い、ご家族様の来所時に、今までのサービス利用について、その方の情報把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人ひとりの過ごされ方は、皆様違いがあるのが当たり前であり、利用者様に合った有する力を見極めて、現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスの実施。家族への説明、ご意見を伺ったうえでケアプランの同意をいただく。また、現状に即した対応を行っている。	月1回の会議の中で計画作成担当者を利用者を担当する職員を中心に、本人の思いや家族の意向、主治医や職員等から意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。計画作成担当者が週1回アセスメントをし、月1回利用者を担当する職員などとモニタリングを実施し、更新時に見直しをしている。状態の変化や要望に応じて現状に即した新しい介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の記入。毎月の実践状況の会議を開催し、職員間で情報は共有して必要があれば見直しを行って実践や介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や問題があるたびミーティングにて話し合い必要と思われる支援を実施している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議委員に自治会長、民生・児童委員、第3者委員等社会資源の豊富な地域である。今年は年に2回ある草取りに出席しており、地域では新入であるが徐々に回復して行きたい。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の納得が得られた主治医の往診、受診の実施。月2回の定期受診の実施。緊急時の主治医の受診・指示。医療連携訪問看護の実施を支援している。	利用者や家族の希望する以前からのかかりつけ医の場合には、他科受診を含めて家族の協力を得て受診の支援をして、受診時に利用者の状態を伝えている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、事業所が受診の支援をしている。受診結果はサマリーで職員で共有することになっている。緊急時には救急連絡などをして、適切な医療を受けられるように支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算の実施。情報や気付きは往診記録、個別記録にまとめ、看護師が確認。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院を定めており、緊急時には家族連絡・主治医等と連携し適宜連絡、相談を行う。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針の作成。看取り時期の主治医の判断があった時点で担当者会議の開催、看取りのケアプランの作成、実施等に対応している。平成26年度は中心静脈栄養法の方の対応を行った。	事業所のできる対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族の思いや主治医の意見を聞いて話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を共有して取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	内部研修及びマニュアルにより全職員に徹底。個別に応じた対応の実施。職員一体となり誤薬0を目指した取り組み。その配慮から誤薬は聞かないので、このことを可能な限り続けていきたい。	ヒヤリハットや事故報告書にその場の職員が対応策を記録し、その日のうちに施設長に報告している。書類はコピーして全職員に回覧し、サインをして共有して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。法人の事故対策委員会や教育委員会で協力医療機関や看護師の指導を受け、月1回の会議時の内部研修で転倒、誤嚥、食中毒、通報訓練などの応急手当や初期対応の訓練を実施し、職員の実践力につなげている。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、近代的な防火設備(スプリンクラー)を配置しており、又非常口等もすぐ対応できるので全職員が身につけている。	年1回、業者の協力を得て、法人全体で昼夜想定火災時の避難訓練を利用者と一緒に行っている他、自動火災報知設備、スプリンクラー消火設備等の消防器具の訓練や確認をしている。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者を含め職員一同、お互いが言葉使いを含めて配慮を行い、内部研修において利用者様に対して、人格の尊厳を損なわない言葉かけを行っている。	プライバシー保護の業務マニュアルを作成し、職員は内部研修で学び、理解をして、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報に関する記録の管理や守秘義務について職員は理解している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声に耳を傾けて、可能な限り意向に添って、介護時には言葉をかけ、了解を得てから動作を行うように徹底をしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所理念にも掲げているように、お一人おひとりの幸せに関わらせていただく。その人らしい過ごし方が出来るように、希望に添って支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長髪希望の方は髪を伸ばし、その日ごとに髪型を変えている。外出時のおしゃれの実施。希望者には月1回の訪問散髪の実施を行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運営推進会議にも、栄養士がひごろもそうの食事に付いてご説明を申し上げた。利用者様の中にはお茶碗を洗っていただいたり、出来ない方にはお茶碗を下げていただいて、助かっています。	三食とも法人からの配食を利用し、法人の管理栄養士が献立を作成している。利用者の状態に応じて刻み食などの支援もしている。プランターで採れたミニトマトやきゅうりなどを食事の時に添えることもある。利用者は食器洗い、台拭き、下膳などできることを職員と一緒にしている。季節の行事食、誕生日会のケーキづくり、食事レクレーションとして、お好み焼きやちゃんちゃ焼きなどをつくっている他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新たに健康管理表を作成し、バイタルチェック、水分量、食事量、血圧、脈拍、体温、投薬チェック、入浴の有無、排便の有無、排尿回数、体重測定(月1回)月別に分かるようになっていいる。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る人は本人が、歯磨き、義歯洗浄を、できない人は職員が義歯洗浄を実施している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するため、時間や量の記録を行いそれに応じて誘導、声かけを行い自立支援を行っているが、徐々に低下している方も見受けられる。	排泄チェック表を活用してパターンや習慣を把握し、一人ひとりに合わせた誘導や声かけをしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行うと共に飲食物の提供、運動の実施を行い、便秘薬等で調整を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴はいつでも入れる環境を整えており、毎日入浴される方もいて、個々に応じた対応を行っている。トイレで汚染した時も、入浴は隣接しており即刻対応できるようになっている。	入浴は14時から16時までの間、一人ひとりの希望の時間にゆっくり入浴できるように支援している。ディサービスの大浴場の入浴の支援もしている。入浴をしたくない人には時間の変更や声かけの工夫などを行っている。体調によって、シャワー浴や清拭の支援をするなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝具の工夫と選別を行い、昼夜のメリハリをつけることや、主治医の適格な眠剤の服用にて安眠を促す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適宜個人記録、連絡帳への記載。 誤薬ゼロの実現に向け、再度確認の実施。 一人ひとりが用法、使用等理解しており、誤薬がないのが素晴らしいと思います。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌のお好きな方には、DVDにテレビを模写して、その方に応じたウ阿多を一緒に歌い、午前中、午後と体操の時間をとっており、生活歴に合わせた材料の提供を行い、個別に気分転換の支援を行っている。	テレビやDVDの視聴、新聞や雑誌を読む、切り絵、折り紙、ぬり絵、輪投げ、貼り絵、カラオケ、歌を歌う、プランターでの野菜づくり、新聞紙のゴミ袋づくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ランチョマット配り、配膳、下膳、掃除、季節の行事(クリスマス、雛祭り等)など、活躍ができる場面づくりをして、楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	四季を通じて外出は行っており、(雨季・台風・雪)は除く。また、散歩は日常行っており、冬も散歩をするが、当たる風の冷たさに利用者様には厳しそうである。	散歩、買い物、防府天満宮へ初詣、毛利邸、富海の海、七夕祭、防府駅前夏祭り、花見(桜、紅葉狩り)などの他、家族の協力を得ての買い物や外食など、戸外に出かけられるよう支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の管理は難しいようであり、ご家族様よりお預り金を管理。本人のためにのみ使っている。管理者が前月使用した領収書等を明細書と共に提出し、確認印をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をしたいと申された時には、お電話をかける時があるが、全員同一ということは難しく個別対応にて行なっている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、四季に応じたご利用者様と一緒にいった絵画展や、防府天満宮で写した写真及び紅葉の季節の天満宮前での写真を飾っており、生活感、季節感があり、居心地よく過ごされていると思う。	共用空間は明るく、壁には切り絵の内裏雛や貼り絵、行事の写真などが飾ってある。玄関には雛壇を飾り、季節を感じる事ができる。テーブルや椅子、テレビの近くにソファを配置し、利用者一人ひとりの落ち着ける場所となっている。温度、湿度、換気、音に配慮して、利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外での居場所の確保。本人が永年の生活で、自分の個々の居場所が確立されておられる。フロアであるテレビが面白くない時は、自室に帰りテレビを見られる事もある。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンス、布団の使用。居室のレイアウトを工夫しながら、本人の使い慣れた品物を上手に利用されておられる。	テレビ、消灯台、衣裳ケース、衣裳掛け、ソファ、椅子、時計、ぬいぐるみ、手づくりの掛け軸、タンスなど使い慣れた物を持ち込み、家族の写真や切り絵の作品を飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計及び手すりなどの設置。手洗い場も、冬は暖かい温水が自動で出て、安全で自立した生活を行なうための設計がされている。		

2. 目標達成計画

事業所名 (社福)グループホームひごろもそう

作成日: 平成 27年 7月 27日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	法人が自治会にも加入し交流を行っており、運営推進会議を通じて自治会長を始め、副部長さん方々とも交流をしながら、地域との交流を積極的に行っていきたい。	自治会とは様々な活動の中で、環境整備の一環として、年2回の草取り及び清掃を昨年より5人が出で積極的に参加させていただいております。	開設より、3年目を迎え自治会を始め、地域との連携も徐々に浸透してきており、施設と地域住民を巻き込んだ。お互いが合意できるような行事を話し合っていく事にしました。	6ヶ月
2	4	開設より参加している職員は理解が進んでおり、評価項目の理解も進んでおり十分とはいえなくても周知しているように見受けられる。	職員全員が評価項目をきちんと理解した上で自己評価に取り組み自分自身の向上と良い支援を行っていく。	職員全員が数ある内部研修に必ず参加しており、施設の体制を支えている。委員会が多く常に本人の希望通りとはいかないが、ひとつまたは二つくらいの担当を持って努力している。	12ヶ月
3	12	3年を迎えて定期的な内部研修が充実してきており、隠れていた人材も徐々に力をつけてこられております。地道に取り組んできたことが力になってきたという感じです。	管理者を中心に今まで取り組んできたことが職員自身に実を結びつつあります。	月1回の会議ですが運営・栄養・感染・教育・行事・褥瘡・苦情・事故安全対策等8つの委員会が開催されますので、担当の職員さんも全員出席され休まれることなく順調に会議は推移しております。	12ヵ月
4	14	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保行っている。	代表者は職員に労働時間・給与水準やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件整備に努めている。	職場環境については、働きやすいように心配りをされている。昼食時間の60分休憩を確保するようにされており、また、有給休暇等についても各人がとられている。	12ヶ月
5	24	利用者の思いや意向を十分に把握するよう、職員が日常生活の中で、利用者様と親しみの中に顔を見つめながら本人の意向に添った形で取り組んでいく。利用者の皆様が外出を粉まれていますので、できるだけ新鮮な外部の空気を吸っていただきたい。	春夏秋冬は冬の寒さのため少しは控えることをしないといけません、できる限り利用者様が外出できる事を主体として実現していきたい。	新年から防府天満宮を初詣外出から、春は早めの向島を中心とした桜の花見、防府近辺のスーパーでのお買い物、防府天満宮の梅と桜、毛利庭園の紅葉等を計画しており、利用者様の笑顔を拝見するのを心から楽しみにしています。	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。